



# メダカの卵を育てよう!



【個人出展】

kirari lab 小さなかがかん(千葉県) 岩崎 正彦

## ●どんな観察なの？

卵からメダカになるまでの様子を観察し、生命の不思議さにふれてみましょう。メダカの卵は、直径約1mm位と体の大きさに比べて比較的大きく、透明なので、発生の様子を観察するのに適しています。そこで、手のひらにのる大きさのチャック付きポリ袋に水道水5mLと、表面の汚れを取り除いたメダカの受精卵を入れて袋の中の空気を抜きながら封をします。そのままの状態ですべての発生が進み、10日間位でふ化させることができます。途中、水替えをする必要はなく、この袋をそのまま顕微鏡のステージにのせて観察することもできます。

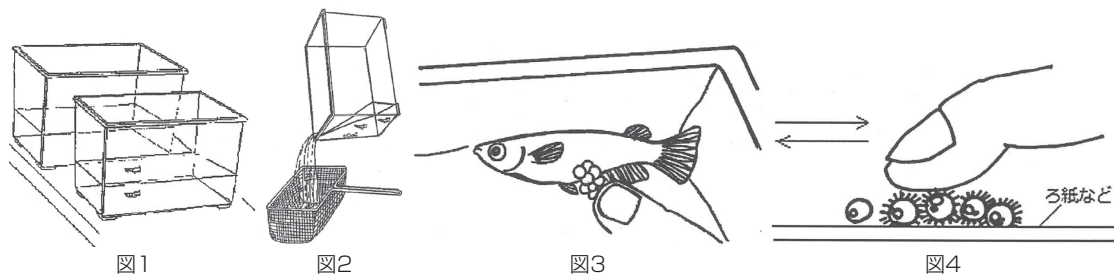
## ●観察のしかたとコツ

### 【用意するもの】

元気なメダカ（オス1・メス1）、飼育用プラケース、すくい網、チャック付きポリ袋（70×50mm）、紙片、水道水

### 【観察のしかた】

- (1)窓際の明るい所に水そうを置きます（図1）。
- (2)毎朝、メダカごとすくい網にあけます（図2）。メダカは、くみ置き水を入れた水そうに戻し、エサをやりまします。
- (3)網に残った卵やゴミを集めます。メダカの腹についた卵は、指先でとります（図3）。
- (4)卵やゴミを紙の上ののせ、指の腹で転がして、卵をバラバラにします（図4）。
- (5)チャック付きポリ袋に水道水5mLと卵1個を入れ、空気を抜きながら封をします（図5）。
- (6)虫めがねでも卵の中の変化や心臓の動き、血液の流れを確認できます。
- (7)卵からメダカがふ化したら、同じ水温の水そうに移します。



## ●気をつけよう

卵からかえったメダカを近くの川などに放してはいけません。

## ●もっとくわしく知るために

- ・小宮輝之著「メダカのかいかたそだてかた」岩崎書店（2001）
- ・「生物教育」第59巻 第2号 p.110～p.113 岩崎正彦、鳩貝太郎著「生命尊重の態度を育てるメダカの教材化について - 教室で採卵するための飼育と発生過程の観察法 -」日本生物教育学会（2018）

